

JICA タンザニア事務所との会議録

日時： 7月6日 15-16時

場所： JICA タンザニア事務所

出席者：堀内成子、長松康子

下山まり、森實沙穂、住谷友結

荒 仁所長、渡辺英樹氏、伊佐直樹氏、中川綾季氏、安保麗子氏

I. 聖路加国際大学のタンザニアプロジェクトの経緯

1. これまでの本学の J I C A 連携 J O C V 派遣歴と帰国後の活躍
2. M U H A S からの留学生受け入れ歴
3. 教員によるタンザニアプロジェクト
4. 今後の J O C V 隊員派遣者の紹介

I I . 荒所長からの説明

タンザニアは J I C A の大学連携プロジェクトのモデルとなるべく、本学との連携継続を希望する。本学は M U H A S からの留学生受け入れ実績があり、隊員の活動の受け入れ下地があり、成果につながる。一方で、ボランティアとしての活動には制約があることを理解してほしい。

I I I . 渡辺英樹ボランティア担当からの説明

COV I D 1 9 によってタンザニアから J O C V 隊員が撤退したことから、事業が中断した。事業再開後に本学の隊員がタンザニア事業に再び参加することを歓迎する。

I V . 安保麗子ボランティア担当からの説明

タンザニアでは、スワヒリ語の習得がボランティア活動上で重要である。タンザニア渡航前に習得してほしい。

バガモヨの担当者はマーガレット氏再任となった

8月に学校での性教育担当他院が渡航予定。

以上



ムヒンビリ国立病院看護部との会議録

日時： 7月6日 10-12時

場所： ムヒンビリ国立病院

出席者： 堀内成子、長松康子

下山まり、森實沙穂、住谷友結

Dr. Jessie Mbwambo

Ms. Redemptha Matindi

Ms. Silvina Swallo

Mr. Obadia Ngoka

Ms. Loveness Urassa

安保麗子氏 (JICA) Ms. Catharine Shirima (JICA)

I. 堀内学長より、本学のムヒンビリ国立病院への学生派遣歴の説明

II. 堀内学長より今後の派遣者の紹介

臨床活動を主力に行うが、可能であればデータを収集して研究を行いたい。

Jessie Mbwambo 氏より、研究にはムヒンビリ国立病院の看護師によるスーパーバイズが可能かとの質問があり、堀内学長より「可能である」との返答があった。

III. Jessie Mbwambo より歓迎のあいさつと本学への希望

隊員には、臨床活動だけでなく、ムヒンビリ国立病院看護師の研究力の向上にも貢献してほしい。また、本学には、ムヒンビリ国立病院看護師の修士号・博士号取得に協力してほしい。実装研究も展開したい。

MUHASU だけでなく、ムヒンビリ国立病院とも MOA を結びたい。

→ 帰国後に担当部署と県とする旨の返答をした。

下山まり氏に対して、タンザニアへの派遣を希望した理由についての質問がなされた。

IV. 産科指導者からの助言

スワヒリ語を習得してほしいとの申し出があった。

V. 産科、新生児室、NICU の担当者より、病床数、主な疾患などについての説明があった。

以上

